

## ◆フアルテット・エクセルシオ(弦楽四重奏)

結成30年を超え、意欲的に活動を続けるエクセルシオが、  
およそ10年ぶりにびわ湖ホールに登場します。  
幅広いレパートリーの中から、弦楽四重奏の名曲をお楽しみください。

2025年10月12日(日) 14:00開演 [小ホール]

[曲目] モーツァルト: 弦楽四重奏曲 第14番 ト長調 K.387  
シューベルト: 弦楽四重奏曲 第12番 ハ短調 D703「四重奏断章」  
ヒンデミット: 弦楽四重奏曲 第1番 ハ長調 op.2

[料金] 一般 4,400(3,850)円 青少年(24歳以下) 1,650円  
[チケット発売] 7月12日(土) 友の会優先発売: 7月10日(木)

## ◆葵トリオ(ピアノ三重奏)

第67回ミュンヘン国際音楽コンクールで日本人団体として初優勝。  
ピアノ三重奏の世界を開拓し続け、結成10年を目前にしてさらに磨きのかかる  
3人の演奏にご期待ください。

2025年11月16日(日) 14:00開演 [小ホール]

[曲目] プーランジェ: 哀しみの夜に  
ドビュッシー: ピアノ三重奏曲 ト長調  
チャイコフスキー: ピアノ三重奏曲 イ短調 op.50「偉大なる芸術家の思い出に」

[料金] 一般 4,400(3,850)円 青少年(24歳以下) 1,650円  
[チケット発売] 8月2日(土) 友の会優先発売: 7月31日(木)

### ■チケット取り扱い・お問い合わせ

びわ湖ホールチケットセンター TEL. 077-523-7136

[10:00~19:00/火曜日休館、休日の場合は翌日。]

びわ湖ホールホームページ <https://www.biwako-hall.or.jp/>

( )内は友の会会員料金。全席指定・税込。6歳以上入場可。



BIWAKO  
HALL

公益財団法人びわ湖芸術文化財団  
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール  
〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15番1号  
TEL. 077-523-7133(代)  
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

### ※お客様へのお願い

会場内での撮影および録音はできません。  
本日の公演では携帯電話電波抑止装置を作動させています。ご了承ください。  
医療機器をお使いの方は、状態をご確認いただきますようお願いいたします。  
やむを得ない事情により、出演者等が変更になる場合があります。



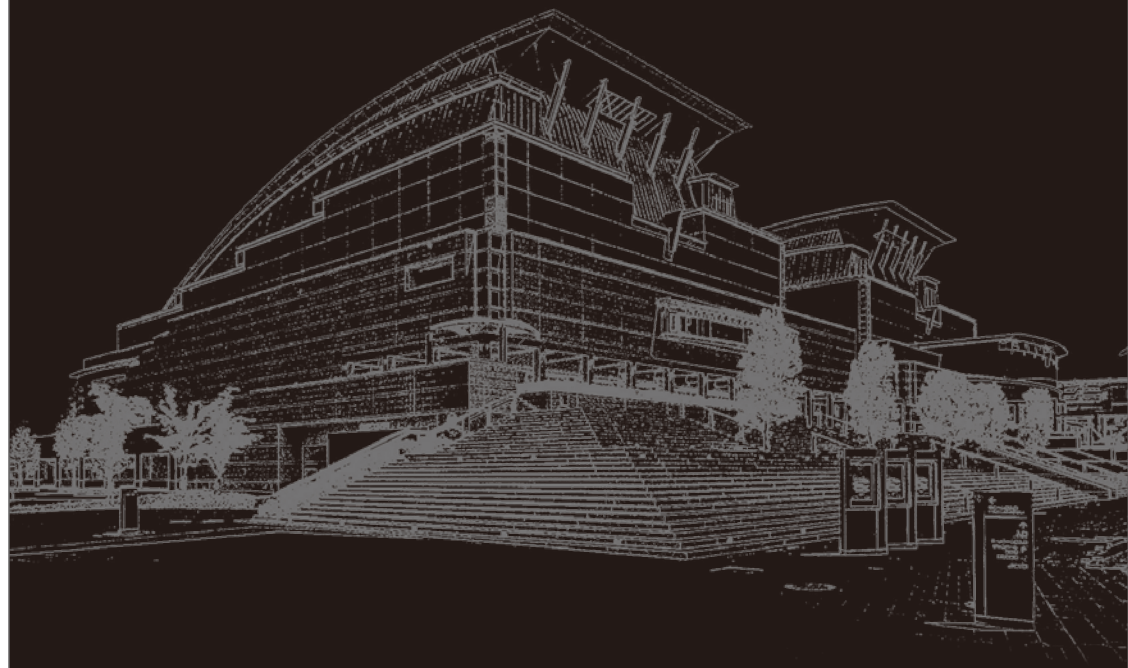
テレコイルのついた補聴器や人工内耳を使用されている  
方は、テレコイルモードに切り替えるとヒアリングループ  
を利用した音声をお楽しみいただけます。

ヒアリングループマーク

## <室内楽への招待>

### 特別コンサート

# ベルチャ弦楽四重奏団&エベース弦楽四重奏団



滋賀県立芸術劇場

# びわ湖ホール

＜室内楽への招待＞  
特別コンサート  
**ベルチャ弦楽四重奏団 &  
エベース弦楽四重奏団**

2025年3月30日(日) 14:00 開演

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール

主催：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

助成：文化庁文化芸術振興費補助金  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

文化庁

独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人日本室内楽振興財団

協力：日本音楽財団 (日本財団助成事業)



びわ湖ホールオフィシャルスポンサー

叶匠壽庵



平和堂



木の家専門店

谷口工務店

◆出演

**ベルチャ弦楽四重奏団** Belcea Quartet

コリーナ・ベルチャ (ヴァイオリン) Corina Belcea, violin  
カン・スヨン (ヴァイオリン) Kang Suyeon, violin  
クシシュトフ・ホジェルスキー (ヴィオラ) Krzysztof Chorzelski, viola  
アントワーン・レデルラン (チェロ) Antoine Lederlin, violoncello

**エベース弦楽四重奏団** Quatuor Ébène

ピエール・コロンベ (ヴァイオリン) Pierre Colombet, violin  
ガブリエル・ル・マガデュール (ヴァイオリン) Gabriel Le Magadure, violin  
マリー・シレム (ヴィオラ) Marie Chilleme, viola  
岡本侑也 (チェロ) Okamoto Yuya, violoncello

◆プログラム

◆メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 op.20  
*Mendelssohn: String Octet in E-flat major op.20*

- 第1楽章 ほどよく快速に 情熱をもって  
*Allegro moderato ma con fuoco*
- 第2楽章 歩くような速さで  
*Andante*
- 第3楽章 スケルツォ：快速に 非常に軽く  
*Scherzo: Allegro leggierissimo*
- 第4楽章 きわめて速く  
*Presto*

～ 休憩 ～

◆エネスコ：弦楽八重奏曲 ハ長調 op.7  
*Enescu: String Octet in C major op.7*

- 第1楽章 とても穏やかに  
*Très modéré*
- 第2楽章 とても激しく  
*Très fougueux*
- 第3楽章 ゆったりと  
*Lentement*
- 第4楽章 リズミカルなワルツのテンポで  
*Mouvement de valse bien rythmée*

## ◆ プログラム・ノート

### 小味洌 彦之 (音楽学、音楽評論)

弦楽八重奏曲は、4人のヴァイオリン、2人のヴィオラ、2人のチェロという、弦楽四重奏を2倍にした編成で書かれています。音の厚みが増えるだけでなく、それぞれのパートのより込み入った絡み合いが魅力的です。作曲家にとっても腕の見せ所ですが、8台の弦楽器という編成は意外に書きづらいのか、今日に至るまでそれほど多くの「弦楽八重奏曲」は書かれていません。演奏機会も限られていますが、このように弦楽四重奏団同士が合同で取り組む形であれば、比較的实现しやすくなります。ベルチャ弦楽四重奏団とエベース弦楽四重奏団という、世界屈指のトップ・カルテットが共演し、どのような音楽を奏でるのかに期待が高まります。

### メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 op.20

19世紀前半のドイツの作曲家、フェリックス・メンデルスゾーン (1809-1847) の音楽は明朗で浮き立つようなメロディと透明で神秘的な響きを持っています。ドイツの初期ロマン派を代表する作曲家として知られます。裕福な銀行家の家庭に生まれ、4歳違いの姉ファニーとともに、幼い頃からピアノと作曲のレッスンを受ける恵まれた環境に育ち、生涯にわたって何一つ不自由なく暮らすことができました。まだ差別が本格化する以前の時代ではあったのですが、ユダヤ人であることによる迫害とは、ずっと隣り合わせてした。

《弦楽八重奏曲 変ホ長調》はメンデルスゾーンの作品の中でも、湧き出る泉のようにみずみずしい音楽がとめどもなく書き連ねられています。1825年の作品ですから、この頃メンデルスゾーンはまだ16歳の少年でした。友人であるエドゥアルト・リーツの誕生日プレゼントとして書かれました。有名な《「夏の夜の夢」序曲》も翌26年の作品です。この成熟した音楽は正に天賦の才と言う以外にありません。

4つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉は音楽のよろこびがあられもなく綴られ、対照的に〈第2楽章〉は密やかな響きが続きます。〈第3楽章〉は細かな音の動きがおどけた表情を描き、〈第4楽章〉でメロディがダイナミックに絡み合ってフィナーレとなります。いずれの楽章でもヴァイオリンの1番奏者が旋律を奏でる部分が多く、その主導のもとに音楽が形作られる傾向にあります。

### エネスコ：弦楽八重奏曲 ハ長調 op.7

ジョルジュ・エネスコ (1881-1955) はヴァイオリン奏者として幼年期から活躍し、12歳でウィーン楽友協会音楽学校 (現・ウィーン国立音楽大学) を卒業後、パリ音楽院でマスネやフォーレに作曲を学びました。ピアニストとしても一級の腕前で、指揮者としても活躍したマルチな才能を持つ音楽家です。作曲家としても、20世紀のルーマニアを代表する存在です。近年は、生地ルーマニア語の発音に合わせて「エネスク」と表記されることが多くなっています。

1900年 (19歳) 作曲の《弦楽八重奏曲 ハ長調》は1899年作曲の《ヴァイオリン・ソナタ第2番》に続けて書かれたもの。1年半もの期間を費やした野心作で、「初めて吊り橋を設計する技術者よりも不安を感じた」という比喻でその苦労を表現しました。ヴァイオリン奏者のエドゥアル・コロンスが組織していたコンセル・コロンス芸術協会で演奏されることを希望したものの、リハーサルを経て、演奏困難としてプログラムから外されてしまいました。紆余曲折の末、1909年になってから、ジェローズ四重奏団とシャイレール四重奏団のメンバーをエネスコ自身が指揮して初演されます。このコンサートは新作であった《ピアノ四重奏曲第1番 ニ長調 作品16》のほか、すべてエネスコの作品で構成されていました。

4つの楽章で構成されますが、楽章間の切れ目はありません。全体をひとつのソナタ形式に当てはめることが可能で、第1楽章が提示部、第2楽章が第1主題の展開、第3楽章が第2主題の展開であって、第4楽章が再現部とされます。その上で通常の4楽章構成と捉えて、ここからはそれぞれの楽章について記します。〈第1楽章〉は「とても穏やかに」とされて、メドレーのように次々と新たな主題が連なります。目の前を通り過ぎていく音楽が不思議な味わいで流れるのです。「とても激しく」と記された〈第2楽章〉はスケルツォ楽章。交錯する旋律線が鋭利な刃物同士がぶつかり合うようにあらわれます。「ゆったりと」とされた〈第3楽章〉は緩徐楽章。切々に歌い込むよりも、密やかで穏やかな歩みの中で、メロディがたゆたうように紡がれます。〈第4楽章〉は「リズムカルなワルツのテンポで」とありますが、内容はデモーニッシュな3拍子の音楽で、響きが表出する力が強く、相撲にたとえると圧巻の押し出しとでも表現しうる音楽です。

全曲を通して、メンデルスゾーンの弦楽八重奏曲とは異なるアプローチが取られており、時にパートごとのユニゾンを巧みに組み合わせることで、独自の音楽構造を築いています。また、リストの《ピアノ・ソナタ》や《ピアノ協奏曲》が形式上のモデルともされています。



## ◆プロフィール

### ベルチャ弦楽四重奏団 Belcea Quartet



コリーナ・ベルチャ Corina Belcea, violin  
(ヴァイオリン) 1755年製 ジョヴァンニ・パティスタ・ガダニーニ (MERITO弦楽器信託より貸与)

カン・スヨン Kang Suyeon, violin  
(ヴァイオリン) ジュリア・マリア・パッシュ製作

クシシュトフ・ホジェルスキー Krzysztof Chorzelski, viola  
(ヴィオラ) 1670年頃製 ニコラ・アマティ

アントワーン・レデルラン Antoine Lederlin, violoncello  
(チェロ) 1722年製 マッテオ・ゴブリナー (MERITO弦楽器信託より貸与)

ベルチャ弦楽四重奏団の音楽は、情熱と精度、純粋で豊かな表現力によって特徴付けられている。

1994年、ルーマニアのコリーナ・ベルチャ（ヴァイオリン）、ポーランドのクシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ）ら英国王立音楽大学に学ぶ4人のメンバーで結成。アルバン・ベルク四重奏団やアマデウス四重奏団に師事し、幾度かのメンバー交替を経て、現在は韓国系オーストラリア人のカン・スヨン（ヴァイオリン）、フランスのアントワーン・レデルラン（チェロ）を加えた4人で構成され、それぞれの持つ異なるバックグラウンドが一体となり、独自の音楽性を築いている。

バルトーク、ベートーヴェン、ブラームス、ブリテンの全曲録音に加え、ベルク、デュティユー、モーツァルト、シェーンベルク、シュレーベルト、ショスタコーヴィチ、ヤナーチェク&リゲティ等の録音をリリースしている。2022年春、アルファ・クラシックスからタベア・ツインマーマンとジャン＝ギャン・ケラスとの共演で『ブラームス：弦楽六重奏曲 第1番&第2番』をリリース。また、自身が創設した財団との共同委嘱で数多くの現代作品の初演も行っている。

2017年～2020年ピエール・ブーレーズ・ザールのアーティスト・イン・レジデンスを務め、エベース弦楽四重奏団と共にウィーン・コンツェルトハウスのレジデンス・アンサンブルとしても活動している。

### エベース弦楽四重奏団 Quatuor Ébène



ピエール・コロンベ Pierre Colombet, violin  
(ヴァイオリン) 1717年製 アントニオ・ストラディヴァリウス「ピアッティ」  
(ベアーズ国際ヴァイオリン協会より貸与)

ガブリエル・ル・マガデュール Gabriel Le Magadure, violin  
(ヴァイオリン) 1743年頃製 バルトロメオ・ジュゼッペ・グアルネリ・デル・ジェス  
(Serge and Florent Boyer弦楽器より貸与)

マリー・シレム Marie Chilemme, viola  
(ヴィオラ) 1734年製 アントニオ・ストラディヴァリウス「ギブソン」  
(ハビスロイティンガー・ストラディヴァリウス財団より貸与)

岡本侑也 Okamoto Yuya, violoncello  
(チェロ) 1682年製 ジョヴァンニ・グランチーノ

エベース弦楽四重奏団は、今日の世界の室内楽シーンで最も創造的なアンサンブルであり、大きな成功をもって聴衆を魅了し続ける。

2004年、難関のARDミュンヘン国際コンクール優勝（合わせて5つの特別賞を受賞）。ベルリン・フィルハーモニー、ウィーン楽友協会、ウイグモア・ホール、カーネギー・ホールなど世界各地の音楽の殿堂はもとより、ヴェルビエ、ルツェルン、ザルツブルク等の著名音楽祭にも度々招かれている。クラシックからジャズまでジャンルを超えた意欲的なCDを続々リリース、数々の権威ある賞を受賞している。

2019年～2020年にかけて《ベートーヴェン・アラウンド・ザ・ワールド》と銘打った五大陸ワールドツアーを敢行、各地でライブ収録したベートーヴェン弦楽四重奏曲全集（CD7枚組）をリリース、パリ、フランクフルトなどでベートーヴェン・サイクル公演を行い、結成20周年イヤーを祝した。

現在、ミュンヘン音楽・演劇大学にて後進の育成にも力を注いでいる。2024年1月、ソリストとして活躍を続ける気鋭のチェロ奏者の岡本侑也が加入、今回が新メンバーによる初来日公演となる。

びわ湖ホールでは2022年6月に公演を行って以来、4度目の登場。